

第2回大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会（概要）

開催日：令和7年11月28日（金）

場所：大田区役所 第五・第六委員会室

出席者：委員長：小島勇人

委員：佐藤郁美、谷口尚子、堀江敏雄

事務局：大田区選挙管理委員会事務局

【1. 開催趣旨と位置付け】

第2回委員会では、第1回で確認した不適正処理（不在者投票者数の二重計上・白票水増し）を踏まえ、①当時の業務体制や研修状況、②投票から開票に至る時間的制約、③従事職員アンケート結果、④事務局による改善策（案）について整理を行い、今回の不適正処理の背景となった構造的要因と、選挙事務に内在する課題・改善の方向性を議論した。

【2. 事務局による説明の要点】

事務局から、次の事項について説明が行われた。

・業務体制：

局内職員・兼務職員の配置状況、超過勤務の実態、他自治体との比較 等

・職務別研修：

事務局職員、期日前・当日投票事務、開票事務それぞれの研修内容・受講状況

・当日の時間的制約：投票終了後から投票者総数確定までのフローと確定運用

・従事職員アンケート：

投票・開票従事者の負担感、コミュニケーション、研修等に関する回答

・改善策（案）：

不在者投票者数二重計上防止、時間別投票者数集計、再発防止策の検討材料

【3. 委員からの主な意見・指摘】

（1）人員体制に関する指摘

・業務や責任が特定の職員に集中しやすく、長時間勤務や心理的負荷が大きいこと、また必要なときに相談しにくい体制が問題を深めているとの指摘があった。

・事務局内の情報共有や業務フローの整理が不十分な場面があり、担当者によって対応にばらつきが生じるおそれがあるため、業務の棚卸しや改善点を組織的に蓄積する仕組みが必要とされた。

（2）研修体系に関する指摘

・班ごとの個別研修は実施されているものの、開票作業全体の流れや役割分担

を体系的に理解する研修が不足しており、全体像を踏まえた運営力の向上が必要との指摘があった。

- ・投票録作成など重要工程について、実務を想定した事前訓練が十分でなく、当日の作業に習熟が反映されにくい状況があるとの意見が示された。

(3) 時間的制約に関する指摘

- ・投票終了後の短時間で投票者数を確定する現在の時間設定や、速報時刻を強く意識した運用が、現場に大きな負担を与えているとの指摘があった。
- ・22時速報については、初回は「0票」であっても支障はなく、過度に急がせない運用とすることで正確性を優先すべきとの意見が示された。

(4) 職員アンケートに関する指摘

- ・ミスが起きた際に相談・報告しにくい雰囲気があるとの回答を踏まえ、早期に相談できる環境を整える必要があるとの指摘があった。
- ・業務・責任の偏りが負担感や不公平につながっており、業務が個人に集中しないよう組織としての支援体制を構築すべきとの意見が示された。
- ・継続して従事する職員を一定数確保することで、相談しやすい関係性が形成され、事務の安定運営にも資するとの意見があった。

(5) 改善策（事務局案）に関する指摘

- ・提示された改善策は、現場の実態と整合しているかを確認しながら検討を進める必要があるとの意見があった。
- ・時間別集計など新たな手法については、現場負担や作業手順への影響を踏まえ、実務を想定した検証が必要とされた。
- ・誤りが生じる可能性を前提に、複数名で確認できるチェックポイントを設け、体制整備・研修内容の充実・職員の意識付けを組み合わせることで再発防止を図るべきとの指摘があった。
- ・選挙事務の意義や基礎的な理解を深める教育・研修を強化し、担当者が各作業の目的を見失わないようにすることが重要との意見も示された。

【4. 今後の方向性】

第3回委員会（非公開）では、第2回で示された事務局の改善案について、委員意見を踏まえたブラッシュアップを行うとともに、白票水増しに至った原因分析と、具体的な再発防止策の検討を進める予定である。最終提言に向けて、実効性の高い再発防止策の取りまとめを行う。